

(4)

アメリカの65歳以上の入院患者130万人について、担当した医師の性別を調べた。

入院後、30日以内の死亡率は男性医師が11.5%、女性医師は11.1%だった。退院後の再入院率も女性医師のほうが低かった。これは、女性医師のほうが治療方針を守り、患者の話をよく聞き、専門家に相談する傾向が強いためと言われる。しかし、アメリカでは女性医師の給料が男性医師より8%低く、昇進も遅いという。

(2017年1月12日 朝日新聞より一部改変)

4 この文章をまとめたものとして、最も適当なものはどれか。

- 1 アメリカでは、男性医師は女性医師より多くの患者を救っており、給料も高い。
- 2 アメリカでは、女性医師は男性医師に相談することが多いため、給料が安い。
- 3 アメリカでは、医師の給料は、医師としての能力より性別に左右されるようだ。
- 4 アメリカでは、医師の能力によって、給料や昇進の速さが決定されるようだ。

(1)

人間に寿命があるように、会社にも寿命があります。

新しく生まれた会社は、会社をつくった人が優れていると、みるみるうちに成長します。新しく社員をやとい、会社の本社や工場を建設して、会社は大きくなっていきます。

でも、その会社が作って売っている商品は、やがてお客にあきられてしまうかもしれません。会社が新しく始めたサービスがすばらしければ、競争相手がまねするかもしれません。

そうになったら、会社の発展は止まってしまいます。会社は、常に新しい商品やサービスを開発していかないと、やがて寿命が来るのです。

私たちの体をつくっている細胞は、古くなると死に、また新しい細胞が生まれています。見た目は変わらなくても、私たちの体は、常に新しく生まれ変わっているのです。①会社も同じです。

昔から存在している会社は、名前は変わらなくても、仕事の中身は大きく変化しています。いや、②中身が大きく変化したからこそ、いまでも会社が存在している、と言うべきでしょう。

ですから、会社にも寿命がありますが、常に生まれ変わる努力を続けていれば、寿命を延ばすことができるのです。

(池上彰『14歳からのお金の話』マガジンハウス)

5 ①会社も同じですとは、何と同じなのか。

- 1 人間の体
- 2 寿命
- 3 商品やサービス
- 4 競争相手

6 ② 中身が大きく変化したとは、どんな意味か。

- 1 新しい工場を作ったり、本社を建てたりした。
- 2 古い社員がいなくなって、新しい社員が増えた。
- 3 今までとは違う新しい商品やサービスを作り出した。
- 4 社員たちが努力して、素晴らしい能力を持つようになった。

()

7 会社は、どんなときに寿命が来ると言っているか。

- 1 会社が大きくなりすぎて発展できなくなったとき
- 2 新しい商品やサービスが、ほかの会社との競争に負けたとき
- 3 古い商品やサービスが消費者に飽きられて売れなくなったとき
- 4 新しい商品やサービスを考えず、成長が止まったとき

()